

◆関東羈旅（カントウキリヨ） No.42  
紅葉の筆魂(成田市)

成田山新勝寺

紅葉祭りで有名な、大本山成田山を訪ねました。JR 総武線に乗り「成田駅」で下車、駅前の案内板を見てから徒歩 10 分ほどの成田山新勝寺へ、表参道を散策しながら向かいました。

途中には、民芸品・和菓子のほか、「近江屋・駿河屋・菊屋」などの江戸時代から続いているうなぎ料理の店が軒を連ねています。目的の成田山には入口の総門から仁王門をくぐり抜け、大本堂でお参りすることができました。「成田のお不動さま」で親しまれている成田山新勝寺は、川崎大師、高尾山とともに関東三山の筆頭として知られ、その起源は平安時代中期の「平将門の乱」までさかのぼり、朱雀天皇に遣わされた寛朝大僧正が乱平定祈願を行い、乱平定後の 940 年に「新たに勝つ」にちなみ、新勝寺と名付けられたそうです。

今では年間 1 千万人が訪れているそうです。

川柳・仁王門にて

- ・紅葉に 我を忘れる 時間あり
- ・由緒ある 店の名前は 江戸時代
- ・狛犬の 形相怖い 仁王門

平和の大塔

成田山公園は 1928(昭和 3)年に完成、1998(平成 10)年に大改修した大庭園で、1 周するのに 2 時間程かかりました。

大本堂のそばには、国指定重要文化財のきらびやかな三重塔や、聖徳太子堂が立ち並び、さらに坂を上っていくと色とりどりの紅葉に囲まれた光明堂と平和の大塔が姿を現します。平和の大塔は 1984(昭和 59)年に建立されており、見た目は二重の多宝塔ですが、内部は 5 階建てとなっており、この二重基壇、内部五層の建築は、弘法大師が高野山に建立した根本大塔と同じ様式で、大慈悲の教えを象徴するとのことでした。

また、世界各国から寄せられた平和へのメッセージ入りタイムカプセルが納められており、気の長い話ですが、弘法大師 1600 年御遠忌の 2434 年に開封されるそうです。

- ・彩は モミジに負けぬ 艶やかさ
- ・紅葉の 杜に開ける 光明寺
- ・そびえ立つ 慈悲の教えと 平和の塔
- ・枝の葉が 桜のごとく 散るモミジ

書道美術館と筆魂の碑

平和の大塔より坂道を下ると、文殊池、龍樹池、龍智池と 3 つの大きな池が並び紅葉の日本庭園が広がっていました。池と並ぶように「成田山書道美術館」が建てられており、美術館の前庭には「筆魂の碑」が建立されています。筆魂の碑は 2008(平成 20)年、成田山開基 1070 年祭に日中

両国書壇との深まる由縁を顕彰し、墨筆の妙用を供養するため建立されたそうです。書道には疎いのですが、ひと通り眺めてみようと思い中に入ると、文化勲章を受章した書道家「青山杉雨」の書、「中野越南」の書などが展示されていました。

書道素人の私でも素晴らしい芸術と感ずることができる趣のある書体に、力強さも優しさも溢れているように感じました。

帰路には成田出身で独自の句境を築き上げた女流俳人「三橋鷹女」の像を訪ね、成田山散策を十分堪能することができました。

- ・満開の 桜想わす 紅葉狩り
- ・書道家の 心揺さぶる 美術館
- ・奔放な 子規に似ている 鷹女の句

「海員だより」